

越前市人口ビジョン

概要版

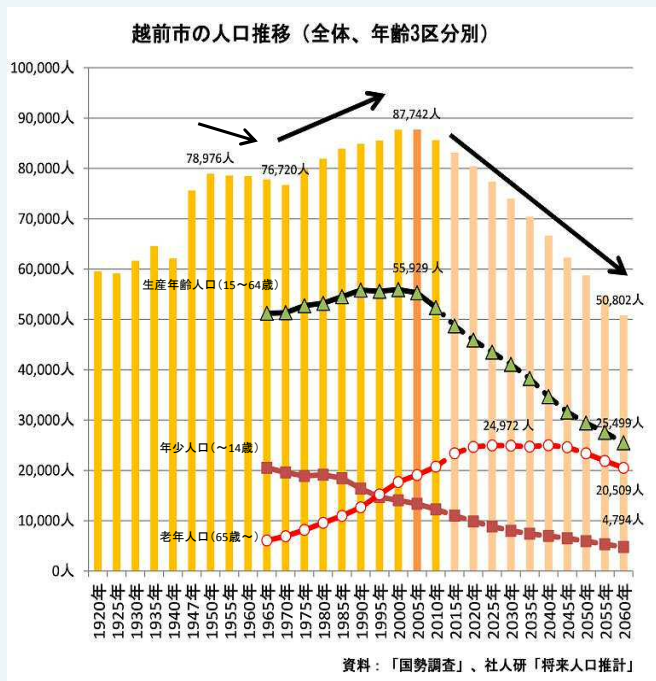
期間(2015~2060年度)

人口ビジョンは、人口の現状を分析し、人口に関する認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです。

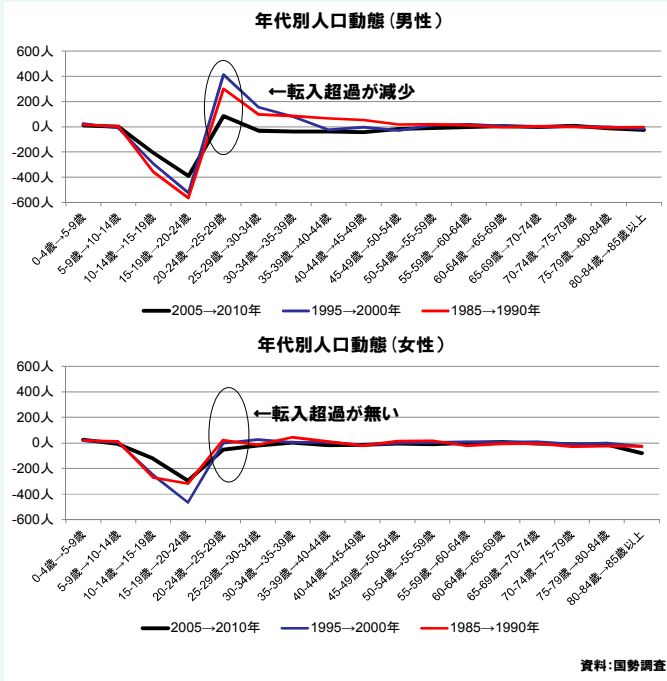
人口減少対策に取り組むための越前市の課題

- ①社会増減の改善(特に女性の転入促進)
- ②非婚・晩婚化の対策
- ③少子化対策(合計特殊出生率の向上)

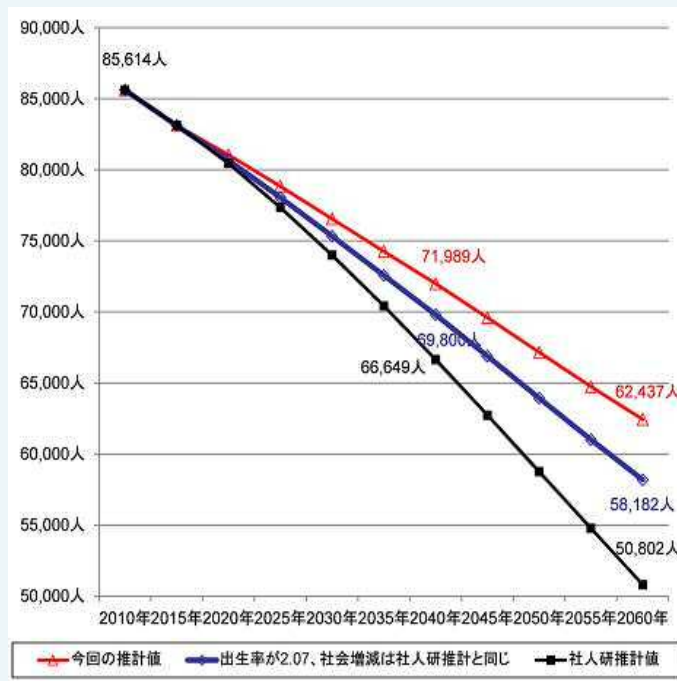
越前市の人口の推移



社会増減に影響を与える要因



越前市の将来人口推計



- 越前市の人口(外国人含む)は、第一次ベビーブーム以降、減少傾向にありましたが、1970年以降、上昇傾向に転じ、2005年をピークに再び減少に転じました。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今後も減少傾向が続き、2060年には約5万人となるとみられています。
- 年少人口は、1965年から一貫して減少傾向を示しています。2060年には4,794人で、2010年の約4割になると推計されています。
- 生産年齢人口は、1965年から2000年までは緩やかながら増加傾向を示していましたが、以降は減少傾向に転じています。2060年には25,499人となり、2010年の半数以下になると推計されています。
- 老年人口は1965年以降、上昇傾向が続いています。今後も、2025年までは増加傾向が続き、2045年まで一定の水準で推移した後、減少傾向に転じます。2060年に20,509人で2010年と同水準となります。

越前市の社会増減を性別に分けて年代別にグラフ化したのが上の図です。

- 男性の場合、10-24歳で転出超過となっています。一方、25-34歳では転入超過となっていますが、直近(2005→2010年)で見ると、転入超過数が大きく減少しています。また、35歳以上の世代でも転出超過に転じています。
- 女性の場合、10-24歳の転出超過は男性と同じですが、25-34歳では男性と異なり転入超過数がほぼ0に近い状態となっています。

⇒社会減の主な要因としては、市外に出た若年層(特に女性)が戻ってこないことが考えられます。また、直近の傾向を見ると、女性だけでなく男性も市外に転出した若年層のUターン率が下がっていると想定されます。

自然減の要因としては、高齢化による死亡数の増加のほかに、結婚・出産の中心世代の女性人口の減少や未婚者の非婚化・晩婚化、合計特殊出生率の低下などによる出生数の減少が考えられます。

- 出生率が2040年に人口置換水準(2.07)になり、社会増減が社人研の推計通り推移した場合、2060年に約58,200人となり、社人研の推計値より8,000人程度増加すると推計されます。
- 本市の人口の将来展望については、総合戦略に掲げた諸施策を確実に実行することにより減少傾向に歯止めをかけ、**2040年に72,000人**程度になり、その施策を継続することで、**2060年にも62,000人**程度になると見込まれます。

人口減少対策に取り組まないと
2060年の人口は約5万人

女性のIJUターンを促進し、
出生率を向上する施策が必要

女性が輝くモノづくりのまち
～子育て・教育環境日本～